第５学年　「てつがく」学習指導案

授業者　岡田　博元

２月２２日（木）１階多目的室　１０：００～１０：４０　　話し合い　１０：５５～１１：４５

１　題材名　　自由について自由に話そう

２　考える価値内容　　他者（自由と責任）・自己（自主・自立）

３　題材について

（１）人は自由に生活してはいけないの？

５年生の「問い」の特徴として，「大人とは？」「感情とは？」のように，大きなテーマが挙がることがある。本学級でも，「大人に近づくと何が変わる？」「みんなが感じている責任とは？」など，大事だとわかっているが，内実がはっきりしない概念について，他者の声を通して理解していこうとする対話を重ねてきた。「大人に近づくと…？」では，自由が増えるという考えが多いと予想したが，それに反して「責任が大きくなること」が多く挙がった。「期待に応える責任はあるのか」等の問いを考える子どもたちは，自由が得られる反面で，これまでの安心感の中に埋もれていられない不安に，対話を通して触れていこうとしている。子どもたちが感じている「自由」は，他者との生活の中で制限されるべきものという前提が感じられる。すると本単元では，「自由の魅力とは？こわさとは？」を自分の生活をふり返りながら新たに価値づけることが必要だろう。

（２）お互いの自由を守るには？

子どもたちはこの題材に入る前に，「努力は大変なのに，何のために努力するの？」という問いについて話してきた。そこでは，「自分に自信をもつため」「自分を知って，広げるため」という共通了解を見出した。「自由の感覚」を，欲求と自分の能力の間で，制限と努力との関連から生まれる自己変容の意識と捉え，これまでの対話を前提にすると，本題材では，他者とともに生活する中で互いの自由をどう捉え，どう守るかという側面を扱うことになるだろう。「みんながいると自由にできない？」「正しいことは自由の邪魔になる？」といった問いを考えながら，互いの自由が衝突した時，どのような共通了解を見出せるかを考えるあたりがポイントとなる。

しかし，これ自体が単元の目標ではない。「自由に対して感じる不安と期待」を個々の感じ方で語りながら，その中での共通了解を探し，自分なりのキーワードや次の問いを見出していくことが，５年生が「てつがくすること」を楽しむ資質・能力だと考えている。

３　学習指導計画（７時間目／全９時間）

・「自由の感覚」について対話し，問いを整理する。
　最初の問いから，自由の魅力やこわさをどう感じているかを話し合う。（２時間）
・２時間目の話題ついてグループで話題を絞り，全体で話し合う。（２時間）
・第４時で挙がった問いを話し合い，自分の理解を記述する。（２時間）
・ここまでの対話を振り返り，共通了解に向かう。（本時１／２時間）
・単元を振り返り，自分たちの対話を価値づける。（１時間）

４　本時の学習について

（１）本時のねらい

対話を振り返って考えの重なるところと重ねられないところを意識する。

（２）本時の展開

予想される学習活動と子どもの姿	留　意　点
１　対話を振り返る	・前時までを振り返り，もう少し話したいことを確認する。
２　１についての答え方を一文で表す。 ３　共通了解できそうなものを探す	・掲示された一文への感じ方を話し合う。・重なりを見出すためのキーワードを考える。それは全てに当てはまるかを吟味する。または，大きく違う意見の意味を考える。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

その学級なりの共通了解を見出す営みから育つものとは何か。